

全国に挑んだイレブン。スターティングメンバーのうち6人は2年生。今大会の経験は次に生かされるはずだ。



# 全

国の壁は厚かった。2年連続24回目の出場を果たした遠野高校は後半に力尽き、初戦で涙を飲んだ。

第93回全国高校サッカー選手権大会は昨年12月30日から1月12日までの7日間の日程で行われ、埼玉スタジアム2002などで熱戦が繰り広げられた。同校は31日、神奈川県相模原ギオンスタジアムで、滋賀県代表の草津東高と対戦。攻守に死力を尽くし善戦するも、1対3で敗れ、県勢7年ぶりの初戦突破はかなわなかった。

遠野はキックオフとともにエンジン全開。陣地が風上であることを生かし、攻勢を強めた。DFで主将の杉山航平(3年)を中心に体を張ってボールを奪い、すぐさま前線へ。県大会決勝で2得点を決めたMF・岩淵弘人(2年)や決勝弾を放ったFW・須藤和輝(同)にボールを集め、何度も相手ゴールに襲い掛かる。

前半12分、攻撃の一時の隙を突かれ先制を許してしまう。流れを呼び戻すべく、選手はさらに走り、全員でボールに食らいついた。26分、岩淵のクロスを須藤が頭で合わせて同点となると、駆け付けた遠高サポーターの歓声が会場に轟いた。遠高ムードの勢いに乗り、前半は終了間際まで何度もゴール前に攻め込んだ。しかし、あと一歩

## 立ち足はだかる「全国」の壁。遠高イレブン、善戦するも敗退。

盛岡商業高を組織力で破り、2年連続でつかみ取った全国の大舞台。滋賀県代表の強豪・草津東高を相手に前半は互角以上の戦いを見せたが、後半に力尽き県勢7年ぶりの初戦突破はならなかった。全員サッカーで挑んだ遠野高校の熱戦を振り返る。



選手に熱い声援を送る遠高サポーター

のところで追加点に結びつかない。

後半は攻勢一転。前半にも増して強くなった風にも苦しめられた。個の力で上回る草津東の攻撃陣にボールを支配され、風に乗って両サイドを何度もえぐられた。9分には、ゴール前の混戦を押し込まれ失点。遠野は俊足の堀内郁斗(FW・2年)を左サイドに投入してカウンターを試みるが、風と相手の堅い守りに阻まれシュートまで至らなかった。その間、相手の猛攻をGK・菊池至(3年)が体を張った好セーブを連発してしのいでいたが、37分に決定的な3点目を奪われ、万事休す。歯を食いしばってボールを追い続けたが、無情にもそのまま終了のホイッスルは鳴った。最後まで走り抜いた選手に、遠高サポーターからは惜しめない拍手が送られた。初戦で敗れはしたが、全員で走り、全員で守り、全員で攻める、ひた向きな「全員サッカー」は、多くの人に勇気と感動を与えた。

今大会の主要メンバーは2年生が中心。また、中学時代に全国ベスト8を経験した遠野中出身の1年生も力をつけてきている。この悔しさをバネに全員サッカーのDNAを受けついで後輩たちが、次もまたこの大舞台に帰ってきてくれるだろう。遠高イレブンの挑戦は、まだまだ終わらない。遠野の地に優勝旗を持ち帰る日まで。



岩淵(MF)は厳しいチェックをかいくぐり、何度もチャンスを作った。



遠野の守護神・菊池(GK)は体を張った好セーブを連発。



Interview

現主将(2年)  
須藤 和輝 君

全国で勝つためには、さらなる体力・技術・精神のレベルアップが必要だと実感した。常に全国レベルを意識し、個の力と組織力に磨きをかけていきたい。



Interview

現主将(3年)  
杉山 航平 君

心も体も鍛えることができた遠高での3年間を誇りに思う。日々の生活や学習も大切な練習の場と捉え、後輩にはさらなる高みを目指してもらいたい。

Game Result

12月31日 相模原ギオンスタジアム(神奈川)

遠野	1	0-1-2	3	草津東
得点				
須藤(26分)				北川(12分) 中村(49分) 北川(77分)
シュート数				
前半 5本 後半 0本				前半 3本 後半 9本



市民センターでは表彰式などが行なわれました

93rd  
All Japan High School  
Soccer Tournament

第93回全国高校サッカー選手権ダイジェスト

# 熱闘の記憶